

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：感染症予防費

事業名 特定感染症検査事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部感染症対策推進課 感染症対策第二係 電話番号：058-272-1111(内 4655)

E-mail: c11237@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,606千円(前年度予算額：1,913千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,913	956	0	0	0	0	0	0	957
要求額	1,606	803	0	0	0	0	0	0	803
決定額	1,606	803	0	0	0	0	0	0	803

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

県内では、B型肝炎ウイルス陽性者が2万人、C型肝炎ウイルスキャリアが3万人いると推定されており、ウイルス陽性者・キャリアの多くは、肝炎、肝硬変、肝がんへと移行するため、無症候性キャリアの早期発見、早期治療への結びつけが必要となっている。

また、エイズ患者・HIV感染者数は依然として増加し、当県でも感染者等は年々増加し、令和元年末までにHIV感染者192名、エイズ患者143名が報告されている。

さらに、梅毒患者が全国的に増加しており、HIV検査と同時に検査を行うことで早期発見、早期治療へ結びつける。

これらの感染症のまん延を防止するためには、感染者を早期に発見し、適切な医療に結び付けることが重要である。

(2) 事業内容

患者・感染者を早期に発見するため、これらの特定感染症に対する検査・相談を保健所において実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1 / 2 県 1 / 2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額 (千円)	事業内容の詳細
報償費	52	特例検査に係る謝金
旅費	44	業務旅費等
需要費	1,034	検査消耗品等
委託料	441	HIV 追加検査、梅毒検査及び肝炎ウイルス検査委託料
使用料	35	検査会場使用料
合計	1,606	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

HIV、梅毒及びウイルス性肝炎感染者の早期発見及びまん延防止のため、今後も引き続き、事業を行う必要がある。

事業評価調査（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 B型、C型肝炎、HIV及び梅毒に対する検査・相談を保健所において実施することで、感染者を早期に発見し、適切な医療につなげます。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
肝炎ウイルス検査件数	(H)	159件 (H29)	191件 (H30)	210件 (R1)	270件 (R3)	77.8%
HIV抗体検査件数	(H)	426件 (H29)	465件 (H30)	506件 (R1)	550件 (R3)	92.0%
TP抗体検査件数 (H29年6月開始)	(H)	317件 (H29)	423件 (H30)	479件 (R1)	550件 (R3)	87.1%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
 ○保健所における検査体制の拡充
 平成23年度から引き続き、5保健所においてHBs抗原検査、HCV抗体検査及びHIV抗体検査の無料検査を実施。平成29年度6月から梅毒検査も受検できるよう検査体制を整えた。
 また、世界エイズデーに合わせ、休日検査を実施したほか、各保健所が圏域の大学等と協力して啓発を行った。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
 令和2年8月末時点で、HCV抗体検査及びHBs抗原検査を各42件、HIV抗体検査を115件、梅毒検査を114件実施した。
 また、HIV抗体検査115件のうち、平日夜間検査は23件であった。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価)	<p>○</p> <p>HIV、梅毒感染症、ウイルス性肝炎とも、本人が感染に気付かないうちに重症化するとともに、他人にも感染させてしまうおそれがある疾患である。</p> <p>従って、早期発見、早期治療が特に重要な感染症であり、保健所における無料検査の実施は必要性が高い。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	<p>○</p> <p>毎年一定数が保健所で検査を受けており、陽性者も発見できていることから、感染の早期発見に寄与しているといえる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価)	<p>○</p> <p>肝炎検査については、医療機関への委託（別事業）と併せて実施することで、幅広く受検機会を提供している。</p> <p>HIV、梅毒検査キットについては、保健所間での在庫調整を行う等、予算の効率的執行を図っている。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>より多くの県民に積極的に検査を受けてもらうためには、早期発見の重要性についての普及啓発が不可欠。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>岐阜県のHIV感染者は平成23年に過去最高となるなど、近年高いレベルで推移しており、積極的な対策を継続していく必要がある。引き続き、保健所における検査体制の拡充を図っていくとともに、積極的な受検を促すための啓発活動を実施していく。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	